

今回のゲストは作家の志茂田景樹さん。直木賞作家でテレビでも活躍されたが、最近では、童話を書く一方で子どもたちに絵本を読み聞かせる活動に力を入れている。SNSを通じた情報発信にも取り組み、ツイッタールのフォロワー数は34万人を超す。7歳となった今も精力的な活動を続ける志茂田さんの世界によるこそ。

(構成・山田稔)



# 読み聞かせを終えると僕の心もすがすがしくなっていた

## 二木 啓孝の 一服一話<sup>上</sup>

ゲスト作家 志茂田景樹さん



二木 読み聞かせ活動はいつころから始められたのでしょうか。

志茂田 1996年にK I B A BOOKという出版社を立ち上げたのですが、知名度を上げるため全国各地の書店(地域一番店)でサイン会を始めました。98年の10月、福岡の岩田屋にある書店でサイン会を行ったのですが、隣が玩具売り場だったので、隣が玩具売り場だったものだから小さい子どもが多かったです。そこで、読み聞かせをやってみようか

と思い立ち、『三匹の子豚』と新美南吉の『赤い蠟燭』を読んだのです。二木 反応はどうでしたか。

志茂田 最初はざわついてたのが、しばらくするとシーンとなって、2つの物語の世界に入ってきてく

れ、いつの間にか語り手と聴き手の間に垣根がなくなり、感動を共有していたのです。帰り際、小学校低学年の子が「感動しました」「また来てね」と言ってくれました。40代の女性は「落ち込んでいたけど元気が出ました」と。読み聞かせには力があると思いましたね。二木 書くとこの行為とはまた違った感動ですね。志茂田 読み聞かせを終え、僕の心もすがすがしくなっていました。絵本には大人の心を洗う力があると痛感しました。それで読み聞かせをずっとやっていくと決め、帰京後、女房に話したのですが、「あなた……」と絶句でした。そ

## 1998年から始め今年7月には1900回に

にもやったことがないのですから(笑)。

二木 ということは年間100回以上。結構なペースですね。

志茂田 女房はすぐに賛成してくれました。息子たちが卒園した幼稚園を皮切りに二人三脚で活動を始めたところ、テレビや新聞が取り上げてくれ、仲間が10人増えた。そこで「よい子に読み聞かせ隊」を結成したのです。99年8月のことでした。

二木 どのくらいのペースで活動されているのですか。

志茂田 去年の12月に通算1800回を達成したと思っていたのですが、よく調べてみたら一昨年の12月に達成していました。今年の7月で1900回になりました。

▽しもだ・かげき 1940年生まれ、77歳(自称・新17歳)。静岡県出身。中央法学部卒業。1980年「黄色い牙」で直木賞受賞。2014年「キンガくる日」で日本絵本賞受賞。絵本作家、児童書作家、小説作家、「よい子に読み聞かせ隊」隊長。